質化―質の追求

“ある事象に対して粗悪なものしか知らないとその世界はそこで閉じてしまいますが、質を追求することにより、その先に広がる世界を知ることができるのです”

ブッダは、執着こそが人間に不幸をもたらす最大の要因の１つであると考え、衣食住などありとあらゆる事象について必要以上に質に拘ることを強く戒めました[1]。その極限が、ぼろを纏い（最低限の衣）、托鉢をしながら（最低限の食）、全国を行脚する（住の放棄）、出家僧ということになりましょう。質を追求していくということは、執着を生むことであり、仏教の教えと真っ向から反することになりますが、人間分子論では、ある事象に対してより質を高めていく志向性を「質化」と呼び、幸福を得るための重要な内的要因の１つと考えます。もちろん、執着の罠に陥らないようにすることは大切であり、質化による良いものへの執着や、機化による依存症に陥らないための制御（コントロール）が必要です。これについては、3-11 節「内的要因の制限因子」で詳しく考察することにしましょう。

モノのよしあしを識別する際に基準（ものさし）となるのが、自分が経験した最も高質なモノです。古美術商は、多くの一流品を目にすることにより、良質な品を選別する目を養います。音楽家は一流の音に触れることにより、良質な音を選別する耳を養います。我々は、自分の経験知の中で上限となる感覚を基準として、モノの質を判断しているのです。したがって、高質なものを経験するということは、モノを選別・評価する際の判断基準を与えてくれるのです。人間分子にとって、ある事象に対して粗悪なものしか知らないとその世界はそこで閉じてしまいますが、質を追求することにより、その先に広がる世界を知ることができるのです。世界の広がりを知ったうえで何をどのように選択するかは課題でありますが、知らないこと自体は幸せの可能性を狭めてしまうことになります。

池波正太郎は、稼ぎの少ない若者こそ、１年に一度くらいは行きつけの居酒屋に行くところを何回か我慢して金を貯め、一流の寿司屋やてんぷらに行ってカウンターで主人と対峙してみるよう勧めています[2]。一流の料理もさることながら、一流の職人との会話は大きな勉強となるだろう、と言うのです。自分の中で世界の基準ができれば、同じコストなら、質（一流料理店）を追求する代わりに、量（安居酒屋に行く回数）を減らすようになるかもしれません。あるいは、多量の添加物と冷たくなったコンビニの寿司は、いくら安くても値段に見合わない高い買い物である、と考えるようになるかもしれません。同じコストなら、５００円の使い捨て傘を毎回購入するよりは、宮内庁御用達の職人の作った堅牢で素敵な傘に自分の名前でも彫ってもらって一生愛用する方がどれだけ豊かで楽しいことでしょうか。かけたお金（コスト）に対して、得られる便益（ベネフィット）の比を経済学用語でＢ／Ｃ（ビーバイシー）と言います。「質化」は、高コストと思われるかもしれませんが、全く逆です。世界を知ることで、Ｂ／Ｃを最適化する選択眼を得ることができ、低質な駄モノに投資しなくなるものです。お金に余裕があれば、ミシュランの星付レストランも良いでしょう。お金がなければ、自ら釜炊きした白米（電気釜より短時間で美味しいものができる）と、多摩川河川敷で採取した野草のてんぷらとタンポポサラダを食してみることもできるはずです。コンビニ弁当よりも遥かに低価格で質の高い食事を楽しむことができ、取れたての野草は、ある意味、ミシュランよりも高質と言えるのです。

「機化」についても質を追求することにより幸福の幅を広げられる可能性があります。漫然と健康のためスポーツジムに通うのもいいですが、フルマラソンに出場する、マスターズ水泳に出場する、新潟から佐渡島まで泳ぎ切って見るなど、質を向上させる具体的目標を掲げ、そのために努力をしていく。漫然とカラオケでストレス解消するのも良いですが、ギターやピアノを練習し、自宅で弾き語りを楽しみ、素人も歌える喫茶・カフェなどのオープンマイクでプ

チデビューしてみる。靴磨きや、空港清掃は、社会的には低く見られる職業かもしれませんが、その技を磨きに磨き、その道における世界選手権で優秀な成績を上げ、カリスマとして尊敬を集める人々もいるのです。その精神充足はいかほどのものでありましょうか。

無人島で一人生き残った人間分子は、衣食住、あらゆる事象に対して現状で妥協せず、質を追求したに違いありません。質の追及は生死に関わるからです。より美味しい海産物は無いか、より豊富な水源は無いか、アホウドリのより美味しい食べ方は、毛皮や骨の利用法、などなど。

窓際族になってしまい、毎日お茶汲みだけを命じられてしまったらどうするでしょうか。転職、訴訟、サボタージュ、相談、…人生指南は問題の根本的解決のためのドラスティックな選択肢を提示しますが、人間分子論の教えは、ベクトルが異なります。極限状態の中で、その瞬間・その日を、とにかく最大限幸福に生きる術を提案します。お湯の温度、蒸らし時間、淹れ方、同僚たちが茶を飲むタイミング、お茶淹れの質化を提案します。無人島と同様、最悪の環境に陥った場合も、崩れ落ちず、内的要因を総動員してその日その瞬間の幸せを追求することが大切なのです。

参考文献

[1] 仏教聖典　和文 B6 版
[2] 池波正太郎、男の作法、新潮文庫